

金子賞に葉佐井さん

元広島六大学野球連盟理事長

ハワイ側と交流に貢献

日米の草の根交流に長年、貢献した人をたたえる今年、「金子堅太郎賞」(日米協会主催)の受賞者に広島大名誉教授で、元広島六大学野球連盟理事長の葉佐井博巳さん(87)と広島市佐伯区IIが選ばれた。

葉佐井さんは、核物理学者として被爆建物に残る放射能の測定データ収集など

による研究を続ける傍ら、1986年、広島六大学野球連盟理事に就任。広島からの移民が多いハワイと広



今年の「金子堅太郎賞」に決まり、ハワイとの学生野球交流を振り返る葉佐井さん

島の大学生による親善野球大会の開催に尽力した。

87年に広島で開かれた同大会は、翌年から相互訪問による年1回の定例行事に発展。試合の合間には、それぞれの地での戦争の惨禍を学ぶ場も設け、日米大学生の相互理解に貢献してきたことが評価された。

自らも被爆体験がある葉佐井さんは「相手のプレーを学び、自己を高め合うスポーツ交流は平和を考える上でも意味がある。これまで運営を支えてくれた多くの方への賞と想っている」と話している。

同賞は日米協会創立100周年の昨年、初代会長で法相などを務めた金子堅太郎の名を冠して設けられた。毎年、両国からそれぞれ1人を選び表彰している。表彰式は23日に東京の国際文化会館である。

(伊東雅之)